

2

センター
活用事例

商品開発



“いぶりがっこ”ならぬ“いぶり菊芋”。ひと手間かけた美味しさが自慢。



常務取締役の千葉智永さん（中央）
取締役相談役の吉田幸一さん



地域と連携 菊芋で秋田をPR!

株式会社メディカルファーム仙北

〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生保内字浮世坂74-8 TEL.0187-49-6581 FAX.0187-49-6582



「栄養があって
おいしい!
ぜひ食べてみて」と
吉田さん

体に良いものを届けたい

仙北市の地方創生特区プロジェクトの一環として、2016年に農業生産法人を立ち上げたのが株式会社メディカルファーム仙北だ。高血糖・高血圧の予防が期待され、“天然のインスリン”と呼ばれる機能性農作物、菊芋の生産・加工・販売を手掛けている。

「簡単に作れるものだと聞いていたんですが、実際は本当に大変な作業の連続でしたよ」と笑うのは、予防医学指導士の資格を持つ代表取締役の吉田弘美さん。白いラベンダーに興味を持ち秋田県を訪れたのをきっかけにさまざまな縁がたがり、「未病・予防のための「食」を提供したい」という想いを実現するため、県外から移住し農業の世界へ足を踏み入れた。「雪国ゆえに遅く植え付けて早めに収穫しなければいけないうえに、畑がぬかるんで機械が入れないため手掘りで収穫し、ひとつずつ水洗いしていたまないうちに加工しなくてはなりません。収穫期の人手は常に足りないため、何度も挫折そうになりました」。

積極的な商品開発で販路拡大

独自の土づくりなどの工夫と苦労を重ね、地域の方々の協力を得ながら収穫した菊芋は驚くほど甘く美味しいものになった。その付加価値をさらに高めるべく、秋田名物「いぶりがっこ」からヒントを得て、「秋田燻り屋」シリーズと銘打ち「いぶり菊芋チップス」「いぶりふかし菊芋」を展開。「商品を待ってくださっているお客様も多く、菊芋が常に足りない状態」と吉田代表は語る。また、「どんな素材でもいぶってみる」という取締役相談役の吉田幸一さんのアイデアから生まれた減塩味噌や、規格外のりんごを活用した商品など地元の素材にこだわった商品開発も続けている。

「よろず支援拠点には、地元の企業や県の総合食品研究センターなどを紹介していただきました。今年で5年目になりますが、収穫期の共同作業をはじめ、地域の方々にも助けていただき続けられています。これからも秋田ならではの商品を作り出して県内外にPRしていきたいですね」。

活用事例

秋田県よろず支援拠点

より高い専門性を有するコーディネーターが、企業が抱える売上拡大や資金繰り等の様々な経営課題に対応します。

お問い合わせ 秋田県よろず支援拠点 TEL.018-860-5605